

# 防大67期入校式に

## 招待された7期生

安藤 正武 陸自63

桜花咲き誇り晴天に恵まれた平成31年4月5日、私たち7期生（家族含む170名）は、母校防大67期生の入校式に國分小学校長から招待され参列した。国防の任に就く決意を固めて横須賀市小原台にある防大に入校したのは昭和34（1959）年4月9日、翌日4月10日は、退位された上皇、上皇后さまのご成婚日であった。皇太子殿下が民間から美智子妃殿下を迎えられたことで新しい時代を感じさせられた。今年はこの成婚60年。国家の象徴としていかなる時も国民とともに喜びや悲しみを分かち合ってこられた。1989年以降平成の30年間は度重なる被災地のお見舞い、内外の戦没者の慰霊に心を配られ、皇室外交で国家及び世界の安寧に全身全霊を傾けられた60年間は私たちの人生と奇しくも重なるのである。

私たちは、期待と不安を抱きながら、紅顔の美少年が全国から集い、将来自衛隊幹部への修行を始め、この日から同期生として切磋琢磨し、国防の任に就いたが、20数年前に自衛隊第一線の勤務を終え、今や80歳に近くなつて感

慨深い再会であった。当日は共に人生を歩んだ家族と共に、入校式に臨む67期生の初々しい顔つきや所作を眼前にして彼らの将来を心底から応援することができた。この招待行事は、ホーム・カミング・デー2（略称HCD2）と

呼ばれ、現國分小学校長が提唱されて始まり今回で4回目。60年前に入校した防大卒業生が後輩入校生のスタートを祝い励ます会である。以前から卒業後43年を経て後輩の卒業式に参列するHCDが実施されてきた。即ち、私たちは13年前の平成18年3月、50期の卒業式に招待され、今回は4月の67期入校式に招待されての再会である。時代とともに学校も近代化された現況を観察しつつ、互いに絆を深め友情を交わした仲間たちが後輩の成長に期待しつつ語り合う会であり、生涯で最後の同期生会である。

防衛学館の控室から入校式場に向かう途中、講堂に向かう学生たちを目にした。数日前に着校した新入生も整齊と元氣よく目を輝かせている。学生綱領の碑や私たちをご薫陶下さった初代横智雄学校長像の前を行進する後輩達に期待を寄せる。

原田憲治防衛副大臣や増子豊統幕副長（空将）、外国武官らご来賓が席につかれて10時に入校式開始。式場正面には本科入校生516名（内女性59名）、留学生9カ国25名、研究科入校

生77名が座り、周囲に多くの入校生家族が入っている。国歌斉唱、任命・宣誓・申告と式は進むが所作や入校生全員による宣誓等明瞭かつ大声で精気に満ち頼もしく映った。愈々学校長の式辞が始まり、新入生への祝辞、来賓・家族へのお礼に続き、「60年前に入校された第7期の先輩たちが、新入生諸君を激励するため参列されています。

米ソ冷戦の真只中で自衛隊に対する社会の認知も低い中で、戦後日本の防人として、わが国の独立と平和と安全に大きな役割を果たされた第7期大先輩たちの晴れやかな凱旋に対して、盛大な賛辞と拍手をお願いします」と紹介され、170名全員が立ち上がり、式場全体からの拍手に対して敬礼し謝意を表した。

学校長は引き続き、アメリカの詩人ウルマンの青春賛歌の一節を紹介され、「青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方をいう。臆病さを退ける勇氣と冒険心こそ青春だと語り、新入生諸君の防大進学を選んだ決断こそウルマンのいう青春の見事な体現である」と敬意を表された。また、慶大から学校長に着任して8年目、防大は日本一の大学であると自負している。学問と知性への情熱、体力錬成、自主自律の精神を前提に、自由と規律の均衡点を追求する集団生活等、学生の個性を尊重しつつも規律を重視し、各人の

人格を陶冶している、と話された。防大は今後「さらなる高みのプロジェクト」を構想し、国際性をも身につけた「世界一の士官学校」を目指すと宣言されました。

最後に横初代小学校長が一期生入校式で述べた「偏することなき均衡のとれた人物を目指すこと」並びに「民主主義に對して的確な理解を持つこと」を求め、自衛隊の使命達成のため、幹部自衛官に必要な能力として、危機の瞬間における判断力と決断力を養うよう要望されました。

原田防衛副大臣は、「平成の30年間で安全保障環境は大きく様変わりし、パワーバランスの変化の加速化や技術革新で、速いスピードで厳しさと不確実性を増している」とし、「時代に応じて変化することを恐れない修学」と「従来の延長線上でない真に実効的な防衛力、多次元統合防衛力の構築」への努力を期待された。増子統幕副長は本科学生に「同期の切磋琢磨」「統合運用体制強化の要たれ」の二点を要望された。

入校式終了後、陸上競技場へ移動し、新入生の隣に用意された座席から、学生隊のパレード、卒業生が操縦する陸海空自の飛行、儀仗隊ドリルなど観閲式を見学した。新入生も先輩たちの一糸乱れぬ統一美に魅せられたことだろう。

振り返れば、防大2年生の春は、岸信介首相が日米安保条約の実効性を高めるため、条約改定を英断したが、国会周辺で連日騒動が吹き荒れた。米ソ

冷戦間、緊張の中で必死に自衛隊の練成に精出し、日米同盟の深化を図りつつ、部隊の精強化に邁進した。ベルリンの壁崩壊に始まる平成の時代は、平和の到来を希ったが、雲仙普賢岳噴火災害や阪神大震災等自然災害が多く発生し、湾岸危機や中東の混乱と国際テロ紛争等が多発し自衛隊の国際貢献活動も始まった。平成3年同期の落合君がベルシャ湾へ掃海隊を率いて危険な機雷除去に当たり、平成11年山本君が海幕長として能登半島沖の不審船侵入にあたり自衛隊初の海上警備行動によつて対処する等、国家の安危にあつて敢然と任を果たした同期生の活動を誇りとしたい。防大後輩たちも、危機への対応が一層複雑化する世界で、国家の独立・平和維持の先頭に立つて国民の負託に応えるよう強い心身を鍛え上げて頂きたい。

パレード見学を終えた私たちは、母校を後にして、総会・懇親会会場の横須賀セントラルホテルに向かった。

國分学校長や副校長・納富幹事(29期・陸将)・訓練部長・防衛学群長と岩崎茂同窓会長(19期・空)を迎えて15時から懇親会開始。佐藤三征君の名

司会のもと、佐々木英嗣会長から7期生の絆・団結の挨拶に続き海部会長の平賀君が乾杯の音頭をとった。

学校長は7期生に対し現役の防大生に接するような親しみを込めユーモアたっぷりの口調で挨拶され、特に「今日は特別外出を許可する」とのくだりでは大喝采が起こった。同窓会長は「一回り下の後輩で緊張します。7期の先輩も皆さんお元気で若いですね」と話され、國分学校長のリーダーシップでより高い士官養成に変革が進められていることが紹介された。爾後、参会者一同入り乱れ、思い出話や近況会話等盛り上がり、奥様方も親しく語り合っていた。最後に、吹奏楽部村木君(空)の指揮で元氣一杯学生歌斉唱が行われ、空部会長江藤君の万歳三唱で名残惜しい懇親会はお開きとなった。

上皇さまご夫妻は讓位の諸行事を恙なく完結され、5月1日皇太子殿下が即位され御代替わりして令和の新時代がスタートした。国民誰もが万葉集以前の古来からの大和心を結集して、充実した日本のあり方を創造し、かつ、防大後輩たちが今後ともこの国の独立・平和維持のため一層尊き使命を果たしてくれるよう精進を祈念して、筆をおくものである。

7期同期生も山本安正新会長のもと一同若々しく元気に生き抜こう！